

# Lecture 授業No.20 教科書P.36～

T.Q.「カニシカ王の仏教利用とその結果とは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校  
地歴公民科教諭

# 直前予習 T. A. キーワード確認

## 教科書 P.36～38

T.Q.「カニシカ王の仏教利用とその結果とは？」

1. マウリヤ朝
2. アショーカ王
3. クシャーナ朝
4. 大乘仏教
5. ガンダーラ美術
6. サータヴァーハナ朝

クリックで全て



# 今日の授業ラインナップ。

1. インド最初の統一王朝＝マウリヤ朝
2. 異民族王朝のクシャーナ朝と大乘仏教
3. 小乗仏教と大乘仏教の比較

T.Q.「カニシカ王の仏教利用とその結果とは？」 教科書P.36～

③ **マウリヤ朝** (B.C.4C～B.C.2C) 都\_\_**パータリプトラ**

(1) **チャンドラグプタ**\_\_初代

←アレクサンドロス大王急死による混乱を利用して建国

(2) **アショーカ王**\_\_3代。B.C.3C、全盛

1 領土拡大→ほぼインド統一

2 ダルマ(仏法 ex.慈悲)にもとづく善政 ※1①②

3 仏典まとめ... **小乗仏教**の成立→セイロン島への布教

4 サーンチーのストウーパ(仏塔) ※2

④ **クシャーナ朝** (1C～3C) 都\_\_**プルシャプラ**

(1) イラン系クシャーナ人が建国

(2) **カニシカ王**\_\_2C、全盛

1 仏典まとめ...**大乘仏教**の成立

∴インド統治の統一原理 cf. **仏像**が初めて作られる

1/2枚目のスライドはここまで!

※3

(2) カニシカ王\_\_ 2C、全盛

1 仏典の編修...大乘仏教の成立

∴インド統治の統一原理 cf. 仏像が初めて作られる

——— ここから

2 ガンダーラ美術... ヘレニズム文化の影響 ※4

→3C、ササン朝により滅亡

(3) 南インドにサータヴァーハナ朝 (B.C.1C~A.D.3C)

...ドラヴィダ系。ローマとの交易でさかえる

☆ 小乗 (南伝仏教)

悪口 ∴ 自称は上座部

大乘 (北伝仏教)

自称 ※5

※T. A. まとめスライドへ

自己の救済をめざす

→タイ・ミャンマーへ

全生命の救いをめざす

菩薩 (ぼさつ) 信仰 → 中・朝・日へ

最後のスライドはここまで!

T.Q.「カニシカ王の仏教利用とその結果とは？」 教科書P.36~



クリックで、  
**アショーカ王**と

**カリンガ地方**



## アショーカ王

(前3世紀頃)

### —戦争で悟りを開く—

マウリヤ朝第3代のアショーカ王は、強国カリンガを征服した。その際、約10万人が死ぬという惨状に大きなショックを受け、以後は人間の普遍的倫理である「法」を規範とする政治にきりかえた。そして①人間・動物の不殺生 ②長老やバラモンを敬う ③奴隷や貧しい人々を慈しむなどの考えに基づき、井戸や病院建設などの社会事業を行った。

👉アショーカ伝の表紙

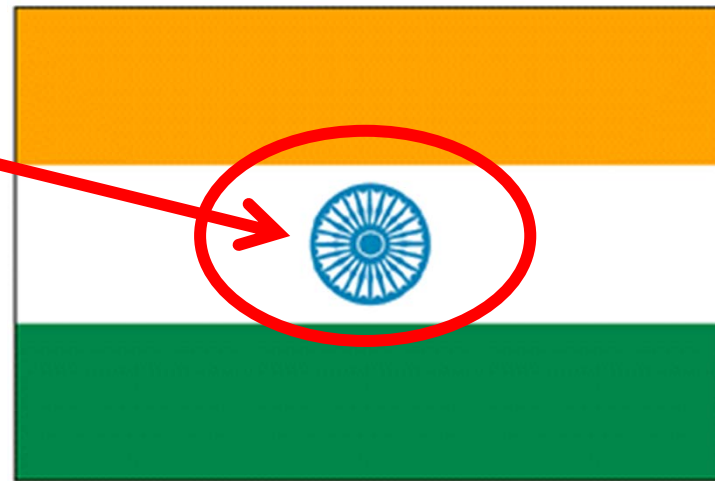


※ 1 ②back

# アショーカ王の石柱碑



インド国旗の中央に描かれている図柄は、このサールナートから出土したアショーカ王石柱碑の柱頭部からとったもの。



サールナート出土アショーカ王柱頭部  
紀元前3世紀

クリックで、現在のインド国旗 ↑



↑ **サーンチーのストゥーパ(仏塔)** しゃか 釈迦の  
しゃり 舍利(遺骨)を納める覆鉢型ふくばちの塔。アショーカ王が建立  
 した。日本の五重塔などの起源。そとば 卒塔婆はストゥーパ  
 を語源とする。周囲には4つの塔門が建てられ、ブツダ 仏陀  
 の伝説とほんじゅうわ 本生話(前世の物語)の写実的な彫刻がほどこ  
 されている。

直径36.6m, 高さ16.5m

※ 2

クリックで、法隆寺  
の五重塔の写真





↓ **ガンダーラ菩薩像**  
クシャーナ朝において、ヘレニズム文化の影響を受け、初めて仏像が造られた。 ギメ博物館(パリ)蔵

釈迦王子像。1～2世紀



クリック①:ガンダーラ仏像  
クリック②:アテナ女神像と  
共通点

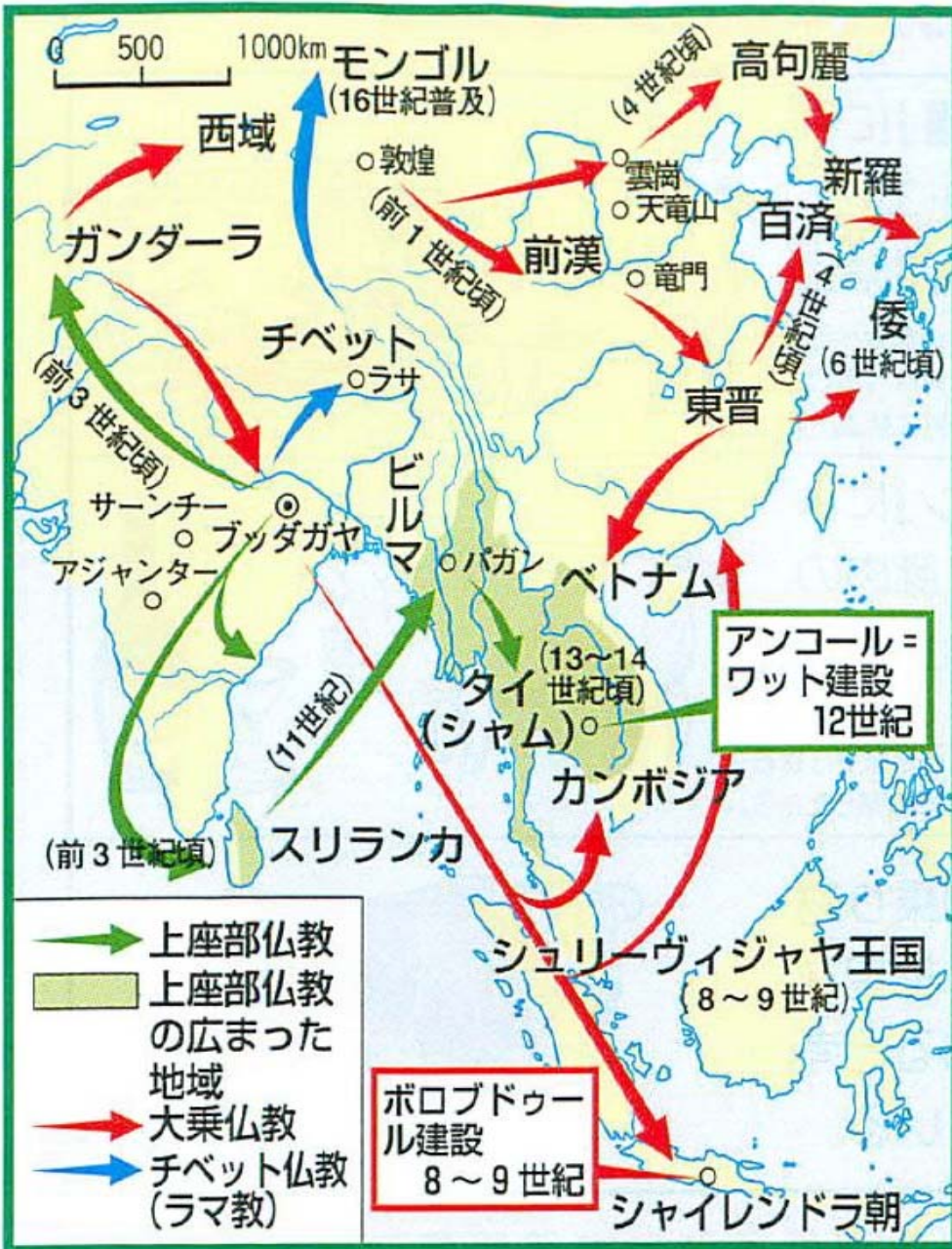
※4 刻まれている文字は、ギリシア文字！



↑クシャーナ朝のコイン カニ  
シカ王(表)と仏陀(裏)の刻まれた金貨。

クリックで、写真

## 2 仏教の伝播 でんば



### ● 上座部仏教と大乘仏教

○解説 上座部仏教は出家した自己が厳しい修行を積むことにより解脱げだつすることをめざした。大乘仏教はすべての生きとし生けるもの(衆生しゅうじょう)の救済をめざした。



クリック①:  
庶民は  
乗れない  
小乗仏教

クリック②:  
庶民も  
乗れる  
大乘仏教

←解説 上座部は東南アジアへ、大乘はおもに西域・中国・朝鮮・日本でんばへ伝播した。

## Lecture 授業No.20

T.Q.「カニシカ王の仏教利用とその結果とは？」

イラン系クシャーナ族のカニシカ王は圧倒的大多数のインド人を「心から服属させる」ために仏教を利用し、自らも熱心な仏教徒であった。そしてヘレニズム文化の影響で仏像が作られ、仏教はより宗教らしい大乘仏教が中心になった。またガンダーラ美術が生まれ、大乘仏教とともに中国・日本へも伝わった。